



はなみずき

学校教育目標

「なぜだろう」
「これでよいのか」
「さあやるぞ」

3学期始業式 ～あきらめない心で～



校長 鈴木克彦

新しい年、令和8年（2026年）がスタートしました。

冬休み中は、大きな事件・事故もなく、みなさん一人一人が、年末・年始にしかできないことや冬だからできることに挑戦したり、ゆっくりと身体を休めたりと、有意義な冬休みを過ごすことができたのかなと思っています。14日ぶりに全校児童が体育館に集まり、無事3学期始業式を迎えることができました。改めて、みんなで新年のあいさつをしましょう。「明けまして、おめでとうございます。」「今年も、よろしくお願いします。」

2学期の終業式で、「1年の計は元旦にあり（広辞苑から：1年中の計画をその年の初めにきめておくとい）から、「新年の志をもつ」というお話をしました。1年の初め（お正月）に、「今年は、〇〇を頑張る。」「今年は、〇〇を始める。」など、新しい年を迎え自分で決めた「新年の志」に向けて、「どうすればできるか。」「こうすればできるかもしれない。」など前向きに考えて取り組んでほしいと思います。まだ、「何も決めていない。」という人がいたら、しっかりと目標を立てて生活をしてほしいと思います。



さて、3学期は、年度の中で一番短い学期で、今年の3学期は、51日間（5年生は、52日）になります。

そこで、みなさんには、総まとめとなる3学期を「あきらめない心で」過ごしてほしいと思います。

校長先生が好きな漫画「スラムダンク」の中で、安西先生が試合中に言った「あきらめたら、そこで試合終了ですよ……。」という言葉があります。

この正月に行われた、「第102回 東京箱根間往復駅伝競走」では、1区を16位でスタートした大学が「往路・復路、総合優勝」をしました。試合後のインタビューでは、選手の誰もが「往路優勝」は難しいと思っていたようですが、最後まであきらめずに、仲間を信じてタスキをつないだ結果が「優勝」につながったんだと思います。



また、往路17位からスタートした学校が、9位に入り来年の大会に参加できるシード権を獲得しました。試合後の監督インタビューでは、「こんなことが起きるのかと、本当にしびれた。17位から9位って（過去）ないと思う。」「地道に365日やった結果」と選手をたたえていました。日頃から目標に向かってあきらめずに努力をしてからだだと思います。この大会に参加した大学（選手）も、心をついにし、誰もあきらめずに最後までタスキをつなぎ、ゴール目指して走っていました。



みなさんも1年間の総まとめに向け、この学年・クラス・担任の先生とどう過ごすか、6年生は、3月25日（水）「卒業証書授与式」の日を、1年生から5年生は、3月26日（木）「令和7年度 修了式」の日の自分の姿をイメージしながら一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。そして、令和8年度、進学・進級する自分に、どんなタスキをつなげるのか（どんな自分になっていけばいいか）を考えて行動してほしいと思います。